

## BRS工法（Aタイプ）・溶接鉄筋（Bタイプ）の比較

	従来の溶接鉄筋（Bタイプ）	BRS工法（Aタイプ）
せん断補強筋の構成、ピッチ	一枚の鉄筋ユニット内は、あばら筋ピッチは全て同ピッチ。	一枚のユニット内で任意にあばら筋ピッチを変えられる。
3階建ての基礎梁のせん断補強筋のフック	手組の場合あばら筋の上下にフックが必要・2階建てまでの認定溶接鉄筋は使用不可。	3階建て建物にあばら筋の上下フック無しにて使用可。
基礎梁の構造計算時にせん断補強筋を構造計算に参入	シングル梁の基礎のせん断力は・コンクリートのせん断力のみで計算 $\alpha = 1$ で。	シングル梁の基礎梁であってもせん断補強筋が構造計算に入れられる $1 \leq \alpha \leq 2$ で。
重ね継ぎ手長さ	シングル梁の溶接鉄筋の場合・実験データ等がない場合が多く45Dの評定が殆ど。	コンクリート設計強度 $F_c 21/\text{mm}^2$ ・主筋SD295Aの場合、40D。
開口部両端部の補強	補強筋での補強が必要。	あばら筋と主筋の溶接強度があばら筋の規格降状点強度以上のため、通常なあばら筋が補強の役割をになう。
2階建てで、基礎梁の構造計算を行わない500㎡を超えるアパート等建物	従来の評定の抜けている範疇。	使用可。
溶接方法	通常溶接・焼き戻し等。	除冷方法。
ベース基礎内部の立ち上がり筋の下端のアンカー	150mm程度。	なし。
一体打ちスパーサー	評定内なし。	評定内に仕様。
構造計算	曲げ体力の計算（一部せん断）。	曲げ・せん断（梁・開口・深基礎）等の計算。
スリーブ補強	補強（斜め筋・せん断補強筋・主筋と同等の鉄筋）等。	小径の補強はせん断筋代用・150以下補強例・構造計算。
開口部補強( $P_w$ で計算時)	補強下部・せん断筋フック付・補強筋手組み。	補強ユニット使用・補強下部せん断筋フックなし。
工法の管理	製造会社。	株式会社BRS
腹筋	300mm程度の間隔にて施工。	600mmまではなし。
コーナー部	コーナー部・基礎の直交部のセンターにあばら筋が必要・評定による。	コーナー部のセンターにあばら筋がなくても基礎幅の中に1本有れば問題なし。
ベタ基礎のテーパー部アンカー	15D程度の余長。	D-10補強筋で代行・収まりが良い。
コーナーユニット	無し。	コーナー部の収まり改良。鉄筋量の減少・腹筋での代替え。
樹脂製の付属品	無し。	数種類。
スリーブ補強	従来の補強。	センターの認定品（市販品使用）。